

グローバル・アジアの社会的発展

「アジアの社会的発展研究委員会」(*主査)

*初岡昌一郎 (姫路獨協大学教授)	井上 定彦 (島根県立大学教授)
伊藤 祐禎 (ILO理事)	鈴木 宏昌 (早稲田大学教授)
郷野 晶子 (ゼンセン同盟国際局長)	内海 成治 (大阪大学大学院教授)
荒木 重雄 (桜美林大学教授)	山田 陽一 (国際労働財団専務理事)

「アジアの社会的発展研究委員会」(初岡昌一郎主査)は、「アジアの社会的側面研究委員会」(初岡昌一郎主査)の研究を発展させたものである。前回の研究は『社会公正のアジアをめざして』に著された。前著と本書『グローバル・アジアの社会的発展』は、民衆の立場に立ったアジアの発展と社会的公正を実現するという点では同様であるが、本書では市民社会のグローバル化に大きなポイントが置かれている。

アジア諸国は経済のグローバル化により、急速な経済発展を実現した。しかし市場経済原理主義ともいえる現実のグローバル化の過程では、他方で社会の不平等を拡大し多くの犠牲者を生み出している。アジアにおいて経済発展の成果をすべての人々に還元し、生活の向上と社会の安定に結び付けるためには、また環境保護を含めて持続可能な社会を実現するには、社会的公正の確立が緊急かつ最重点の課題である。社会的公正の確立は、性と人種の平等を基礎にした、あらゆる差別の実効的禁止と、すべての働く人々、とくに社会的弱者のエンパワーメントと適切な保護なしには達成できない。

アジアにおいては、文化的多様性をもつさまざまな共同体が地域社会をになってきた。こうした共同体の相互扶助機能を復権・再創造させ、社会的・市民的協力を推進し、文化的多様性を尊重した社会的共存基盤を作り上げていくことは、アジア社会の将来を展望していく上での大きな課題である。

目次

- 第1章 民主主義のグローバル化とアジア市民社会
- 第2章 アジアにおける所得再配分と是正の視点
セーフティネット形成と「良き企業統治」を中心に
- 第3章 ILOと基本的人権
- 第4章 アジアの雇用と労使関係
- 第5章 女性労働者が置かれている状況 繊維労働者の事例
- 第6章 教育におけるエンパワーメント 文化的多様性と初等教育
- 第7章 岐路に立つ「参加型開発」NGO
- 第8章 援助と自立 労働組合の開発協力を中心に
- 第9章 グローバル・アジアの社会的発展のために